

福岡県中間市 買い物支援「青空市場」

【自治体概要（令和4年4月末時点）】

人 口	40,135人
高 齢 化 率	38.34%
認 定 率	21.7%
日 常 生 活 圏 域 数	6 圏域

【概要、ポイント】

中間市は、高齢化率38%を超え、福岡県内でも高齢者の割合が高い自治体である。『支えあい共に住み続けるまちづくり』を基本理念に掲げ、地域包括ケアシステムの深化、費用負担の公平性と社会全体で支える基盤整備を進め、介護不安を解消し、誰もが安心して生活できる地域共生社会の実現を目指している。

生活支援体制整備事業では、市内に第1層協議体を1つ、第2層協議体（校区まちづくり協議会福祉部）6つが設置され、第1層生活支援コーディネーター、第2層地域支え合い推進員が調整役となり住民主体の活動を支援しながら、誰もが高齢になっても、住み慣れた地域で元気に暮らし続けられるよう「向こう三軒両隣」の復活を目標に掲げ、高齢者の社会参加や介護予防の促進を行っている。

【取組経緯等】

- 中間市では、さまざまな団体や市民で構成される校区まちづくり協議会を市内の6小学校区に1カ所ずつ整備し、防災、防犯、孤独死防止などの地域課題の解決に向けて地域住民が主体的に取り組んでいる。
- 行政は協力団体として校区まちづくり協議会の取り組みを支援しているが、地域課題は複雑に入り組んでいるため、役所内で各部署が連携しなければ地域のニーズに応えることができない。地域づくりを進める上で、障害となっている行政のいわゆる「縦割り」について、「わたしたち、たてわりやめました」をスローガンに、組織間の壁をなくし、本当の意味での「庁内連携」の実現を目指している。
- 生活支援体制整備事業の買い物支援「青空市場」は、坂道が多く商店もない地区で買い物に困っている人たちを支えるため、老人クラブや自治会、民間企業、中間市が協働し、令和2年11月から移動販売として、まず1つの地区で開始。その後、大型商業施設の閉店の影響や独居高齢者が自転車で買い物に行く途中で転倒する事故が発生したことを受け、3地区に販売地区を拡大して開催。令和4年度中には、新たに3地区を加え、6地区での開催を予定。

【取組の内容】

- 月に1度、各地区30分程度で「青空市場」を開催。野菜、魚類、大豆製品、菓子、惣菜等移動販売が可能な複数の事業所が出店し販売している。
- 主催は老人クラブや自治会等の住民主体で、開催日時の決定や開催案内などを行い、生活支援コーディネーターは販売業者との調整を行っている。
- 青空市場ののぼりやBGM用のスピーカー、商品陳列用のテーブル等の準備。また、どこで何を売っているか分かりやすくするために看板を手作りする等の工夫を行っている。



【取組の効果】

- 自分で見て選んで買い物ができる。
- 活動量が増加し筋力低下を予防できる。
- 互いに見守る安否確認の場になる。
- 買い物支援だけでなく地域コミュニティの場になっている。



【今後の展望等】

現在、市内からの出店は2店であり、残りの2店は市外の事業所である。出店事業所の決定権は地域にあるが、市内の事業所で協力可能な企業があれば調整を図り、地域と繋げていく。また、市内では買い物支援が必要とされる高齢者が増加しているのに反し、配達等の細かいニーズに応じる小売店が減少しているため、この課題を深刻化させないためにも地域と協働して支援を継続、拡大させていく。